

れんめんめん...*



れんめんめん...

つなぐ、ひろげる、わたしていく
新しいふるさとづくり

「初めての子育て、どうすればいいの?」「子どもが思いっきり遊べる場所がほしいなあ」
「近くの川にごみがつまって臭い。なんとかしないと」…
誰かの小さな疑問や思いは、その人の胸にしまっておけばそれまでですが、
他の人と共有し、共感の輪が広がることで変化が生まれます。
誰かの問題を自分の問題とも感じ、一緒に解決していこうとする取組み。
公民館は、そんな活動が生まれるところ…



目次	P 01
ESDとは	P 02
公民館の実践事例	
自然と共に生きる	P 04
川ガキ2013～川であそべるようになろう!／山南ダッシュ村／ 岡山市京山地区ESD環境プロジェクト(岡山KEEP)／ホテルを見る会／天体観望IN津高／ まちなかホテル×子どもfor能登川用水／能登川用水お魚ちょ～さ隊／ 水とみどりプロジェクト	
自然を食す	P 08
緑のじゅうたん／地域の達人と育てて食べる菜園くらぶ／ まぼろしの郷土料理!アユぞうすいを作って食べよう!／ 食と健康講座『地産地消の行事食』／上道ぶどうのスゴイ!!をさがせ／ 上南まるごと食べよう会／お米と生活～お米でクッキング～	
歴史を紡ぎ、伝える	P 12
吉備大賀ハス保存会／井戸マップ作成プロジェクト／ 妹尾太郎兼康語り継ぎプロジェクト／灘崎まちかど物語／鳥城紬／ 興除小唄／操南地域遺産プロジェクト／映像で伝える藤田の魅力(地域ビデオづくり)／ 地域紹介ビデオづくり／こうほくESD通信	
都市に暮らす	P 18
堆肥作りによる土壌のリサイクルと緑化推進／わくわく天然生活／ シンプル・エコ講座／ おもちゃのリユース会あげようもらおう!大切なおもちゃ～次の人へどーぞ♪～／ おもちゃの病院／ キャンドル・ナイト～キャンドルの灯りでスローな夜を楽しみませんか?～／ うどん亭つどい	
農村に暮らす	P 22
わたしたちの食と農／ソバの種まきin牧石／めざせ!そば打ち職人	
人と共に生きる支え合う地域づくり	P 24
地域のみんなでつながり隊～私たちのできること～／ 岡山大学教育学部附属特別支援学校中学部授業『チャレンジタイム』／ 共生のまちづくり～岡山県立岡山西支援学校との交流を通して～／寺子屋高松／ チャレンジワーク～お仕事体験教室～／KNDウィンドアンサンブル／ 夏休みフリー塾(旭東)／夏休みフリー塾～中高生の活躍の場を～(南)／ waiwai♪カフェ／子育て寺子屋～乳幼児編／子育て座談会ニコリーナ／ 御津防災キャンプ／日本語教室／公民館祭りでの交流／多国籍防災会議／ フレンドリー京山／オープンカフェ『さんもく』／ゆったりすと・カフェ／ 『集いの場マップ』づくり／タネピリカ新聞／ESDカフェ(岡西)／ESDカフェ(上道)	
座談会	P 34
公民館とは	P 38
岡山市立公民館一覧	P 42
編集後記	P 44

ESD ってなんだろう？

朝起きてから夜寝るまで、
いくつもの電気製品や電子機器、交通手段を駆使しながら、
忙しく〇〇したり、△△したり、□□したり…しているわたしたち。
テレビやネットを見ると、いろんなニュースや情報が飛び込んでくる。
事故、事件、景気、スポーツ、芸能、教育、環境、紛争、…
自分のくらしと社会で起きていることが、関係あるような、ないような。

でも、3.11以降、このままでいいのかな？何かまちがってないかなあ。

そんなつづやきが増えてきた。

何が大事なことなのか、どんな社会にしたいのか

ひとりひとりが自分のこととして考えて、
見直していく時期なのかもしれないなあ…なんて。

地球規模のさまざまな課題を解決できる人を育てるため、
国連は2005年から2014年を「ESDの10年」と決めました。

ESD というのは **Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)** の略で
持続可能な社会を築ける人を育てる取組みのことです。

岡山市域でも、さまざまな人たちがゆるやかにつながってESDを推進する
「岡山ESDプロジェクト」が2005年から行われています。
学校や市民団体、企業や行政など、多様な立場の人たちが参加しています。

市内に37ある公民館は、日頃から地域の人が集い、学び、活躍する場所で、
各中学校区を中心に地域でESDを実践する拠点にもなっています。

世界の人と協力して解決していかなければならない課題とは？

気候がおかしくなっていること、たくさんの生物種が絶滅しそうなこと
食べ物を捨てている一方で、栄養が足りない子どもたちがいること
貧困が広がっていること、あちこちで紛争が絶えないこと
食料や水の不足、若者に仕事がないこと…

どうやって解決したらいいんだ！っていう大きくて難しい問題も
元をたどればやはり人間が起こしたことで、
毎日の食事や買い物、当たり前のように使っているモノやエネルギーなどを通して
わたしたちともつながっているはずなのです。

そのつながりを見えるようにして、ずっと続くやり方につなぎ直していくこと。
岡山市の公民館ではそれを目指して取り組んでいます。

では具体的にどのような活動が行われているのでしょうか？

これから実際のESD実践を見ていきましょう。

そして、もし興味があれば、あなたも参加してみませんか？

公民館活動は誰かに教えられるものではありません。

みんなで作ってみることで道ができていくのです。

岡山市の公民館のESD7つのポイント

- 1 問題を他人事（ひとごと）ではなく自分事にする。
- 2 「教える-教えられる」関係ではなく互いに学びあう関係。
- 3 どんな未来にしたいかを考えるために過去から現在を見直す。
- 4 取り組みたい人は企画・運営から参加できる。
- 5 目指すのは、地域で持続可能な社会づくりができる人が育つこと。
- 6 知っただけでは社会は変わらない。課題を解決するために、小さくても行動する。行動を変える。
- 7 ひとりではできないことも誰かと一緒だとできる。楽しい。

自然と共に生きる

自然を意識し、観察すること、思いっきり遊ぶことで
私たちがその中で生き、生かされている自然の理を知り、活かし方を学びます。



川ガキ出て来い！

「川ガキ2013～川であそべるようになるう！」

川ガキという生物がいます。夏季、魚や虫や水草の中で十分に川を満喫し、また日常に戻っていきます。川ガキの傍らでは、いつも大川ガキが見守っていて、筏作りや川下りなどの川ガキだけでは難しい遊びと一緒にします。大川ガキは時に、ひっくり返した魚の住む石を、もとに戻すように注意したり、川と礼儀正しく安全に付き合う方法を、楽しみの中で伝授したりします。

初めて川に入った子どもが、ピチピチはねる手の中の魚に目を輝かせる様子を、もう10年以上見続けているこのワークショップ。10年の間に、川ガキだった子どもが成長し、今は、大川ガキとしての役目を果たしています。

農地が減り川の役割も変化した、人々の川への関心も薄れました。でも実は、まだまだ希少な淡水魚やホタルが生息しているのです。川での遊びを通して、川を守る活動を、子どもたちと共に、続けていきます。

高島公民館 p42 map ④



里山・里海 ダッシュ村

「山南ダッシュ村」

里山があり里海がある、そんなわがまちの自慢は「贅沢な自然」。
子どもとその保護者を中心に行われる年5回のイベントは、色々な体験を通して山ガキ・海ガキの身体と心を鍛えようという、力が入った企画です。例えば、
☆海水から塩作り。その塩でおむすびを握って食べてみる。
☆竹トンボを作って飛ばしっこしよう。
☆竹を使ったケーキ作りって、何？
☆しいたけ菌の植付けと収穫。野草などと一緒にテンプラで食べてみよう。
☆山道をハイキングしよう。
☆ツリーハウスで遊んでみよう。
… 季節に合わせてイベントが次々に繰り出されます。
自然が人を生み、育み、そして鍛えます。大きな自然の力の中で、よりよく生きる工夫とワクワク感を、子どもから大人へ、それから他の家族へ、伝播させようという試みです。

山南公民館 p42 map ⑮



自然を知る

KEEP! 京山

「岡山市京山地区ESD環境プロジェクト(岡山KEEP)」



2004年から、子どもの視点を重視しながら、地域内の全世代合同でESDに取り組んでいます。地域が抱えている課題を地域全体で認識・共有し、その改善に取り組むと共に、合わせて地域を担う人づくりを行っています。

生物種、水質、水量と、水辺の環境調査を初夏と秋に行い、私たちの暮らしとの関わりについて考えています。その中で、「緑と水の道」を提案・実現化したり、映画「地域を育んだ用水」の作成、また、半世紀ぶりに「水神祭」や「八朔(はっさく)踊り」を復活させる取組みにも広がりました。

継承してきた伝統文化や風習などを、体験を通して、楽しみながら次世代に伝えます。

京山公民館 p42 map ⑦



蛍が乱舞する景色が見たい!

「ホタルを見る会」、「天体観望IN津高」

始まりは、ホタルを楽しもうという催しでした。もともと津高の限られた地区ではホタルの生息が報告されていました。発見が、主に地域の山側から報告される中、「地域全体に蛍が乱舞するまちづくりを」という声が上がりました。そこから、生息条件などを学習する勉強会が開かれるようになりました。

観察対象がホタルなので、夕方からの活動になるのですが、私たちは星の見え方にも地区によって差があることに気づきました。市街地の明かりが原因です。やがて、星が見えにくい地区はホタルも見つけにくいことに気がつき、関心が、夜空にも広がっていきました。「天体観望」の誕生です。天文学の知識を必要とせず、ご近所と一緒に惑星などを観察する、ハードルの低〜い天体観察です。

一方に、肉眼で多数の星が見えるほどの豊かな自然があり、もう一方に、休みなく続く開発があります。



津高公民館 p42 map 25

よみがえれ 町の自然と物語

「まちなかホタル×子どもfor能登川用水」、「能登川用水お魚ちょ〜さ隊」



写真提供：山陽新聞社

川を観察や魚調査から浮かび上がった結果では、ちょっと意外なほど様々な生物が生息していて、地域の今の子どもたちを育てているということでした。

これから10年20年とまちは変化を繰り返すでしょう。地域に住む人々、学校、商店街の皆さん、企業の方々と話し合いを積み重ねて、「住みたいまち」「住み続けたいまち」の実現に向かって、一歩を踏み出したばかりです。

岡西公民館 p42 map 10

豊かな自然を取り戻す

子どもたちに残そう「わがまちの川」

「水とみどりプロジェクト」



これらの川は、もう役目を終えるのでしょうか？
こんな疑問から「水とみどりのプロジェクト」は立ち上がりました。水質調査、生き物調査、源流探訪、川沿いウォーキングなどで川の現状を知り、その結果から具体的な活動として、川の清掃を始めました。さらに、清掃で集められたゴミを分類し、内容を記録して、経年変化を見えています。経済、政治、社会、そして道徳など、ゴミは様々なことを語ります。

子どもたちが、人生の節目節目に思い出すのがわがまちの川であるような、そんな大きな存在にしたいと思っています。

富山公民館 p42 map 26

岡山市の海沿いのまちのほとんどが、かつて、干拓されて農地となった土地です。そして、農業の最大の課題は、どの時代でも水の確保です。私たちの地域の川も、長く農業用水として重要な役目を担ってきました。しかし、近年、宅地化によって田畑の面積は減り、用水と人々との関わりが減り、関心はさらに薄れています。



次の“おっちゃん”になる子が出てくれば嬉しい

小さな頃から虫をつつきまわして遊んでいた私は、保育園児の時、岡山市立西大寺公民館主催講座「自然探検」に参加。当時の講師“ナスのおっちゃん”(この人も知る人ぞ知る虫オタク)から色々教わったのです。

大学卒業後、屋久島にて観光ガイドの研修を受けるも、向いていないと思い帰郷。そんな時、“ナスのおっちゃん”と西大寺公民館職員の方に「大森くん、自然探検の先生やってくれませんか〜?」と半ばゴリ押し(笑)され、今度は“おっちゃん”という立場で講座に関わるようになりました。正直「先生」と言われるのは好きじゃないけれど、子どもたちがいろんな虫や植物、生き物に触れて感動する姿をそばで見ることが出来てうれしく思います。

子どもたちが「やってみたい」と思うことを引き出したいと思っています。また、子どもたちの着眼点はとても面白く、いろんな子どもたちの違う見方を共有していくのも喜びになります。年の大きな子は知識や体験を重ねているので、「子どもリーダー」としても活躍していく場があればいいと思います。さらに、自分がそうであったように次の“おっちゃん”になる子が出てくれば嬉しいことです。子どもたちが興味を持つものは人それぞれ。「自然探検」で得た学びやつながりを大事にしながら、自分の好きなものを見つけて成長してほしいと思っています。

西大寺公民館で活動している 大森 繁さん

